

「うちの歴史はボランティアの歴史です。」

潤生園 物語

今では当たり前になった、「デイサービス」や、「ショートステイ」、「24時間の訪問介護」も、制度化されるきっかけは、実は「潤生園」がはじめたボランティアだった!?

介護施設がボランティアをして、そして叱られて…。でもそれが、制度化されて全国に広がって。それって一体どういうことだったのでしょうか。おそらく「現役最高齢ソーシャルワーカー」である「潤生園」園長に語っていただきましょう。

私は社会福祉一筋で生きてきましたので、今88(歳)になろうとしているのですが、おそらく、現役のソーシャルワーカーでは日本で一番古い人間だろうと思います。」



園長
時田 純
Jun Tokita

88歳

現 社会福祉法人小田原福祉会理事長。1927年東京生まれ。青年期を信州の松本市で過ごし、その後長野県知事の推薦を受け、「満州国立建国大学」へ入学。しかし、その後戦況の変化により最前線と化した満州で悲惨な戦争経験をし、大連まで逃れるも帰国できず。2年半にわたる抑留生活を余儀なくされる。1947年に帰国後、小田原市役所の面接を受け採用される。配属は民生部厚生課で、生活保護を担当するソーシャルワーカーとして働くことになり、以来福祉の道を歩む事になる。1978年に特別養護老人ホーム潤生園を設立。園長に就任以来、神奈川県内だけでなく全国的に高齢者福祉の向上及び、介護の教育に尽力。また、制度の外で困っている人々にも着目し、型にはまらない行動力と決断力で独自に数多くのサービスをボランティアで始めた。それらは後に制度化され、現在の介護サービスの礎を築き上げてきた。

「困っている人を見過ごさない」

介護施設はもともと困っている人が利用する施設です。私たちは「困っている人を見過ごさない」という思いで、お年寄りに寄り添い、少しでも苦悩の少ない日常生活を支えてあげたいと努力を重ねなければなりません。そのためには、一人一人に、どれだけ気づかいをすることができるかです。人を思う気づきがあれば、それを見過ごすはずはないのです。

地球上、最も厳しい環境と言われる赤道アフリカで、原住民の医療に献身し、ノーベル平和賞を受賞したアルベルト・シュバイツェルは、「人生において多くの美しいものを手にいれた者は、その代わりに多くのものを提供しなければならない。自分の苦悩を免れた者は、他人の苦悩を軽くしてやる責務を感じるべきである。私たちはこの世に存在する不幸の重荷を、皆で一緒に担わなければならない」と述べています。

他者に対する献身は、人間の責務であることを教えたのです。つまり、困っている人を見過ごさないというのは人間性そのものであり、介護の原点なのです。

私たちは日々の介護の中で、どれだけ気づかいはできるか、感性を磨き続けなければなりません。それが人間性を高め、豊かな人格の形成につながるのです。

【エピソード】

在宅介護がまだ制度化されていなかったころの話です。施設の中だけでなく地域の高齢者にも目を向けようと、地元の役員の方に案内していただき、寝たきりのお年寄りの家庭訪問をしました。そこには5年も6年も入浴していない人や、体中が床ずれで苦しむ方がたくさんおられました。在宅で介護を支援する制度がなかったために、ご家族もどうすることもできず、困り果てていました。

そうした人々を放っておけないと思い、せめて入浴させてあげようと、ストレッチャーで迎えに行き、施設にお連れして無償のボランティアで、入浴サービスを始めました。それが大変喜ばれて噂が噂を呼び、利用者が次第に増えていきました。これが現在の、デイサービスの先駆けです。また、お年寄りに施設で1泊していただき、介護で疲れているご家族に休んでもらおうという形の支援もしました。これはツーデイサービスと呼ばれ、NHKで紹介されました。

制度がないので、当然お金はどこからも出ません。数年間ずっと無償ボランティアを続けました。それに対して「入所者の世話をする施設が、地域の人のために手を貸してはならない」と、監査で厳しく指摘されました。

しかし、困っている人を見過ごすことができず、監査に逆らってサービスを続けました。やがてこれらのサービスは、次第に制度化されていくのですが、本来、民間福祉サービスは、制度があればやる、制度がなければやらないという、冷めた対応ではいけないと思うのです。困っている人がいれば見過ごさない、見捨てておけないという思いで、施設ぐるみのボランティア活動を展開してきたのが、潤生園の歴史なのです。

こういった時田理事長の理念については、潤生園の創立35周年を記念して発刊した「潤生園の原点」にもまとめてあります。この冊子には潤生園が大切にしていることとして、以下のような項目も掲げました。

- ・高い志をもつ
- ・常に新しく想像する
- ・地道な努力を積み重ねる
- ・食はいのちをつなぐ
- ・介護は人格の投影
- ・常に目的意識を持つ 等々

潤生園の職員はこの「潤生園の原点」に示された考え方を、自らの仕事の基本に置いています。時代や社会が変化しようと、大切なものを見失うことなく、市民の皆様とともに地域の中で歩んで参りたいと思います。

潤生園の歴史の中で、『自主事業』(ボランティア)というものは、国からの助成金で始めたものではなく、目の前の困っている人のために始めた事業です。

それは、病気で苦しんでいるお年寄り、お金がなくて苦しんでいるお年寄り、孤立して悲しみの中にお年寄りを助けるためのものでした。もう少し、支援の手があれば、元気になって生活できるのではないか、また、困っている家族に笑顔を取り戻せるのではないかと、思いから、国では行われていなかったサービスを創造していきました。それが、「ショートステイ」、「デイサービス」、「24時間のホームヘルプサービス」、「配食サービス」という今では在宅介護を支えるスタンダードのサービスとなりました。「困っている人を見過ごさない」「困っている人がいて、サービスがなければ作ればいい」それが、「潤生園」の後世に伝えていくべき理念です。

介護の資格が取りやすくなりました

詳しくは潤生園ホームページをご覧ください。http://junseien.jp/jinzai/#shikaku

小田原の潤生園で

「介護職員初任者研修」が取得できます。

*修了時に証書が交付されます

社会福祉法人の使命として、介護職員の増加と質の向上に取り組んでいます。より多くの方に受講していただくために受講料を大幅負担し、資格取得に向け全力でサポートします。ぜひこの機会に勉強して、地域貢献してみませんか？

受講資格 / どなたでも受講できます。
*年齢・学歴などに制約はありません。*お申し込みが定員を超えた場合面接により決定します。

受講料 **20,000円**

コース	研修期間(平成27年)	申込締切
9月(平日)	9月7日~11月27日	9月1日

研修会場
潤生園在宅介護総合センター
「れんげの里」
小田原市蓮正寺 997-1
(小田急線蛸田駅から徒歩5分)

*「介護支援専門員実務研修受講試験模擬試験」を9月上旬開催予定 *介護スタッフも募集中です

お申し込み、お問い合わせは

潤生園 高齢者総合福祉施設
潤生園(井口・石井)
〒250-0053 小田原市穴部 377

☎ 0465-34-6001 受付時間 9:00-17:00

